

官能評価教育データの嗜好性と多様性

神戸山手短期大学
現代生活学科
飯田一郎

概要

本発表は官能評価教育の事例をとりあげる。官能評価データの特長として被験者（パネル）が多様性をもつこと、特に「嗜好要素」が背景にあり、実験設計や結果に影響を及ぼす点が挙げられる。これらを可視化するためにデータ解析を活用したいいくつかの事例と留意点について解説する。

官能評価教育（関連した多変量解析教育）の目的は下記にまとめられる。

①官能評価セミナー／多変量解析セミナーの教育目的

日常業務（企画・開発…）への活用
適用される業務；商品企画、販売戦略…

②短大での教育目的

日常生活（衣食住）、仕事への活用
適用される成果；生活行動、販売技術…

官能評価は商品やサービスを対象とし、ヒトの五感による検出情報をデータとして表現し、統計解析を活用する専門技術である。一方、神戸山手短期大学の教育においては実験設計に視点を置き下記のように表現している。

供給者視点の官能評価

生活を安全・安心・安定にし、充実させるために
商品やサービスを創出するプロセスにおいて
感覚を用いて、評価対象を言語表現し
定性的または定量的に評価する方法

生活者視点の官能評価

生活を安全・安心・安定にし、充実させるために
商品やサービスを選択するプロセスにおいて
感覚を用いて、評価対象を言語表現し
定性的または定量的に評価する方法

事例に関わる官能評価教育の論点は以下の三点に集約できる。

(1) 多様性と多次元性

官能評価は心理生理学的には、刺激に対する生体の応答を顕在化したものである。評価対象（素材）、変数（生体作用）、個体（ヒト）の要素に基づき評価用語などで表現される多チャンネルのデータを集約して何らかの認知情報を取得する。データ解析の観点からは如何に、多次元データを集約するか、多様性のある評価者を層別するか鍵となる。

(2) リアルなデータ

ヒトは物事をどう感じるか？感覚に関する表現をアレンジして社会に発信し共感することが現代社会の情報流通の定番になりつつある。現状ではデータの断片化・一通化が問題となっている。ビッグデータ解析は巨大なケース数の裏付けが生命線であるが、データのサンプリング方法に依存するため、対象の本質を見極める「リアルなデータ」を如何に収集するかが課題となる。

(3) 対話的手法

クリエイター視点とユーザー視点を同一場においてみる。探索的に無定形からつくりだすことから始めることを考えると、官能評価は対話的手法として重要な位置づけにあると考える。教育の観点では評価対象を実際に触ってみることで、センスを磨く4つのチカラ（観察力、分析力、想像力、表現力）を身につけることができる。

発表事例は下記の3点から構成される。

- ①官能評価教育（化粧水の評価）
- ②短大での教育（スキンケア方法）
- ③多変量解析教育（おでんのアンケート）

データ出典

日科技連 官能評価セミナー
多変量解析セミナー
神戸山手短期大学 生活学ゼミナール
きれいの科学
化粧品科学演習

本著作物は原著作者の許可を得て、株式会社日本科学技術研修所（以下弊社）が掲載しています。本著作物の著作権については、制作した原著作者に帰属します。

原著作者および弊社の許可なく営利・非営利・イントラネットを問わず、本著作物の複製・転用・販売等を禁止します。

所属および役職等は、公開当時のものです。

■公開資料ページ

弊社ウェブページで各種資料をご覧ください <http://www.i-juse.co.jp/statistics/jirei/>

■お問い合わせ先

(株)日科技研 数理事業部 パッケージサポート係 <http://www.i-juse.co.jp/statistics/support/contact.html>